

知恵の環館

— 絵画コレクション — ③



三七. 四. 一五. 五十余年前の追憶
向ふ所青山あり、否、青海あり、明治三十六年*七月十五日、写生旅行の為、森田、坂本、青木、福田、四人連れにて霊岸島より乗船す、翌朝館山二つ
※「三十六年」は「三十七年」の誤記。

明治36年、福田たねと青木繁が出逢つてから恋仲となるまで、それほど時間はかからなかったようだ。このころの青木は、東京美術学校（現在の東京芸術大学）に在学中で、第8回白馬会展に日本神話をテーマとする「黄泉比良坂」などを出展し、画壇にも登場し始めている。不同

舎門下であった青木は、美術学校入学後も不同舎に入入りを続けていて、そこでたねを見初めた。そして、たねも青木の芸術（絵の魅力）に心酔すること、その人柄にも次第に魅力を感じ始めたようである。二人が出逢つて一年後の夏、明治37年7月、東京美術学校を卒業した青

木は、友人の森田恒友、坂本繁二郎、そしてたねを伴い房総半島布良に写生旅行にでかけた。7月15日、四人は東京の霊岸島（東京都中央区新川。江戸時代に造成された人口島）から乗船し、館山をめざす。その当時の館山は明治10年代から避暑避寒の地として注目され、霊岸島から、東京湾汽船株式会社（東京―館山間の定期船が発着していた。翌朝、館山に到着した一行は、17日から布良の小谷喜六方を拠点に一月半の創作生活を送ることとなった。この間、青木は生涯の傑作となる「海の幸」の制作にとりかかる。たねにとつて、青木との思い出が最も鮮明に宿る場所の一つ、それが布良房総半島だったのだろう。たねの作品の中には布良での思い出を追憶した絵がいくつも遺されている。

しまたかしの 芳賀の自然

45



キチョウ

チョウ目シロチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内

分布=本州以南
生息地=平地から山地の草原
時期=3月~11月(越冬個体もある)
発生=5~6回/年
食性=各種マメ科植物、ネムノキ
大きさ=開帳35~45mm(羽を広げた最大値)
特徴=全身が黄色く、夏型は前羽の表面外側の黒帯が発達し、秋型ではなくなる。

編集後記

広報はが1月号

□新年明けましておめでとうとございます。
新しい年が始まりましたね。
□昨年は東日本大震災が起き、町も大きな被害を受けましたが、皆さんと力を合わせてここまで復興できました。
今年はおつと町が元気になりますように、皆さんにとつて良い年になりますように。(K)



▲ロマン吊り橋

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.espa.com